



2022年12月2日

株式会社 阿波銀行

社会福祉法人和田島福祉会の「SDGs 宣言書」策定について
～ お客さまのSDGs 達成への取組みを幅広くサポートします ～

阿波銀行（頭取 長岡奨、本店：徳島県徳島市）は、SDGs の達成に向けて取組む企業を積極的に支援するため、「あわぎん SDGs 対応度診断サービス」を取扱っています。今回、社会福祉法人和田島福祉会（理事長 大和 忠広、本社：徳島県小松島市）が、当サービスを通じ、「SDGs 宣言書」を策定されましたので、お知らせいたします。

SDGs や ESG への関心が高まるなか、経営課題の発見や新規事業の創出、企業イメージの向上に繋がることから、多くの企業が SDGs 経営に取組み始めています。

当行は、SDGs の達成に向け、企業の方々と一緒に取組む伴走支援を行っています。今後さらに、お客さまの SDGs 達成に向けた支援を通じて地域経済の発展や産業振興に貢献し、魅力ある持続可能な地域社会の実現に向けて取組んでまいります。

【企業概要】

企業名	社会福祉法人和田島福祉会
所在地	徳島県小松島市大林町字金岡 70 番地 1
代表者	大和 忠広
業種	社会福祉事業
設立	1978 年 8 月 30 日

○あわぎん SDGs 対応度診断サービス

当サービスは、SDGs の達成に向け取組む企業をサポートするため、①SDGs 対応度診断チェックシート（※）によるお客さまの取組状況の評価（評価レポート作成）、②現状認識（評価レポート）を踏まえ、お客さまとの対話による具体的な取組み内容（SDGs アプローチシート）の策定、③環境・社会・経済の3側面でのアプローチシートを基にした「SDGs 宣言書」の策定、をご提供するものです。

また、「SDGs 宣言書」策定後も、取組み内容の継続的なサポートや再評価等により、SDGs の達成に向けた実効性の高い取組み支援を行ってまいります。

※本サービスで使用するチェックシートは地域の課題等を盛り込み、SOMPO リスクマネジメント株式会社と当行が共同開発したものです。

SDGs宣言書

2022年12月2日



社会福祉法人 和田島福社会 理事長 大和 忠広

当社は、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行ってまいります。

項目	テーマ	取組み内容	①目的と②達成のための方法	SDGsのゴール
社会・経済	SDGs/ESGの理解	「SDGsって何？」SDGsについて興味や関心を持つことが、世界の大きな問題を解決するためのはじめの一步。	① 絵本や紙芝居を通して、SDGsについて知る	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナシップで目標を達成しよう
			② SDGsの日を設ける	8 働きがいも経済成長も
環境・経済	生物多様性への配慮	身近にある自然が「当たり前」ではないという意識やリサイクルに関する意識を育む。	① 園児の手で身近な素材をグループごとに分別する	8 働きがいも経済成長も 14 海の豊かさを守ろう
			② 分別した資源を使っておもちゃを作り、作ったおもちゃで遊ぶ	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう
環境・経済	地産地消の推進	自分で育て、収穫し、食べるという一連の流れを体験する。また食材がどのようにできているかを知り、地産地消にも関心を持つ。	① 野菜作りを通して収穫の喜びを味わい、食事への感謝の気持ちを持つ	11 住み続けられるまちづくりを
			② 季節や地域の野菜栽培を行う	17 パートナシップで目標を達成しよう
社会・経済	様々な人の支えを知る	身の回りにいる働く人を知ることによっていろいろな人に支えられていることに気付く。	① 散歩や見学を通して、自分たちが様々な人から支えられていることを知る	3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを
			② 行事を通して園外保育に出掛けたり、地域の方と触れ合ったりする	8 働きがいも経済成長も 17 パートナシップで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。